

人にやさしい国はいかに創られたか

－「純粋な人生」と声をかけあうコスタリカから

2017年6月15日 伊藤千尋

1. 世界一幸せな国

あいさつ言葉は「プーラ・ビーダ（純粋な人生）」

2014年 「世界で一番、幸せな国」（英国シンクタンク調査）

2017年国連「世界幸福度報告書」で

12位。米国14位、ドイツ16位、日本51位

開発途上国で1位。

2. コスタリカ基礎知識

①どんな場所か？

COSTA（海岸） RICA（豊かな）、英語のRICH COAST

面積は北海道よりやや少ないくらい

熱帯、火山（最高は3820m）、両側が海（カリブ海、太平洋）

首都サンホセは標高1200m（軽井沢くらい）、年間平均気温は20度

②どんな人がいるのか？

スペインの移民の子孫が開拓、建国した。国語はスペイン語

遅れてきたスペイン人、とりわけカタルーニャ人（自由、自立、勤勉）

中南米に珍しい「白人国家」（白人系95%、隣のニカラグアは白人が19%）

美人国（中南米の3C＝他はチリ、コロンビア）

人口約500万人、うち約100万人は隣国ニカラグアなどからの移民

カトリックが国教だが信教の自由がある

3. 平和立国

- 世界で2番目の平和憲法を自ら制定

1949年施行の現憲法で軍隊を廃止、自衛権は認める、リオ条約へ加盟

憲法第12条「常設の組織としての軍隊は、これを禁止する」

本当に軍隊をなくした、軍艦1隻、戦闘機1機、戦車1両もない

国土を守るのは9800人、うち警察（4500人）、国境警備隊（2500人）、

沿岸警備隊（400人、ボート8隻）、航空監視隊（400人、セスナ10機）、

地方警察（2000人）

- なぜ、軍隊をなくしたのか－①内戦への反省②軍事予算にカネがかかりすぎる

軍事費を教育費に替えた、スローガンは「兵士の数だけ教師をつくろう」

- 平和の輸出

1980年 国連平和大学の創設

1983年 永世積極的非武装中立宣言（モンヘ大統領）

1987年 アリアス大統領が周辺の3つの国の戦争を終わらせノーベル平和賞
街で出会った女子高校生の反応

2017年 国連で交渉中の核兵器禁止条約の提案国、議長国

4. 憲法を活かす社会

- 大統領を憲法違反で訴えた大学生、ロベルト・サモラ君
- 小学生も違憲訴訟
小学校に入って最初に習うのは基本的人権—「誰もが愛される権利を持つ」
- 憲法最高裁 違憲訴訟が年に2万件
憲法に書かれた理想は実現されていない、という発想
- 男女平等 国会の女性議員、憲法を法律で実現へ

5. 教育立国

- 中南米できわめて高い教育水準、識字率96%
- 97年、国内総生産の6%以上を教育費に（憲法78条）、その後8%に
- 大統領選挙のたびに子どもの模擬投票
- 対話、実践教育
- 難民にも教育の権利保証
- 小学生にも落第制度

6. 環境立国

- エコツーリズムの草分け、生物の宝庫、国土の4分の1が国立公園や自然保護区
- 環境ホテルを建設したカラソ元大統領「環境破壊をもたらすのは無知と欲」
- 原発ゼロ、自然エネルギーが99%

7. 社会保障

- 平均余命は中南米で最高、幼児死亡率はキューバに次いで低い
- 長く続いた2大政党がいずれも福祉政策を重視
国民解放党の社会民主主義政策「全国民に福祉を提供する社会政策の整備」を目標
- 保険料は雇用労働者が賃金の8%、雇用者が14%、国家が0.5%を負担

8. 経済

- 農業—パイナップル、コーヒー、バナナ
高度、気温、雨量、火山灰土、教育水準の高い労働者で良質のコーヒー産出
- IT産業、観光（エコツアー）

8. コスタリカの歩みの特色

- 力を合せた開拓移民、開明的な独裁者、市民が創る民主社会

鉱物資源がなく遠いためスペインの総督は視察に来なかった、自立意識が高まる
貧しい開拓農民、自由と自治の尊重へ、階級、階層がない、権力者もいなかった
質素、儉約、勤勉、平等の気風、4つの町が独立したギリシャの都市国家のよう

1502年 コロンブスが上陸、スペインの植民地に

1821年 スペインから独立宣言、1824年中米連邦（38年に脱退）

1835～42年 カリージョの独裁、清廉潔白、国家統合を進める、珈琲生産の導入

1843年 クリスマスに英国貿易船が来た。珈琲輸出開始、中米で最も豊かな国へ
小農が利益を労働者に分配

1847年 議会が最初の大統領任命 新聞社を創業したカストロ29歳

最初の仕事は女子高校の創設、無知こそ悪の根源と考えた、出版の自由を推進

1848年 正式に独立

1849 裕福なコーヒー農園主が武力で彼を追放、コーヒー農園主モラ副大統領が昇格

1856 マニフェスト・デスティニーを掲げたウオーカーの侵入

大統領が抵抗を呼びかけ9000人が呼応、ファン・サンタマリアの活躍＝国際空港
撃退で国民の団結力が高まる、人気を得た大統領が身内登用、珈琲利益の独り占めへ

1859年 国民が反発し大統領を追放、長期権力の否定へ、労働者が少なく高賃金

1870年 グアルディアがクーデターで政権を掌握

1871年 憲法で死刑禁止

1876年 米UFと鉄道敷設契約、珈琲輸出の沿線にバナナ、米国依存経済に

1882年 グアルディアの死で自由主義回復、離婚を認める、政治から教会権力を追放、
教会支配の大学閉鎖、初等教育の無償、義務化、名目のみだった死刑廃止の実現

1889年 初めて政府の不正操作のない選挙

1930年代 バナナ労働者の搾取から共産党創設、34年初のスト

1940年 カルデロン政権 社会保障の確立、労働者の最低賃金制、6日間8時間労働、
団結権、共産党と提携

1945年 フィゲレスが社会民主党創設、カルデロンを批判し国外追放

1948年 大統領選挙の不正をめぐって内戦、6週間、2000人死亡

フィゲレス勝利、銀行国有化、富裕層に所得の1割を税金

最高選挙裁判所の創設、選挙制度の確立

亡命したカルデロンがニカラグア政府の支援を受けて武力侵入、撃退

1951年 フィゲレスが国民解放党（PLN）結成

野党が集まってキリスト教社会連合党（PUSC）結成、2大政党が交代で政権

2002年 PLNを離党したオットン・ソリス議員が市民行動党（PAC）創立

2014年 PACのルイス・ギジェルモ・ソリス氏が大統領に